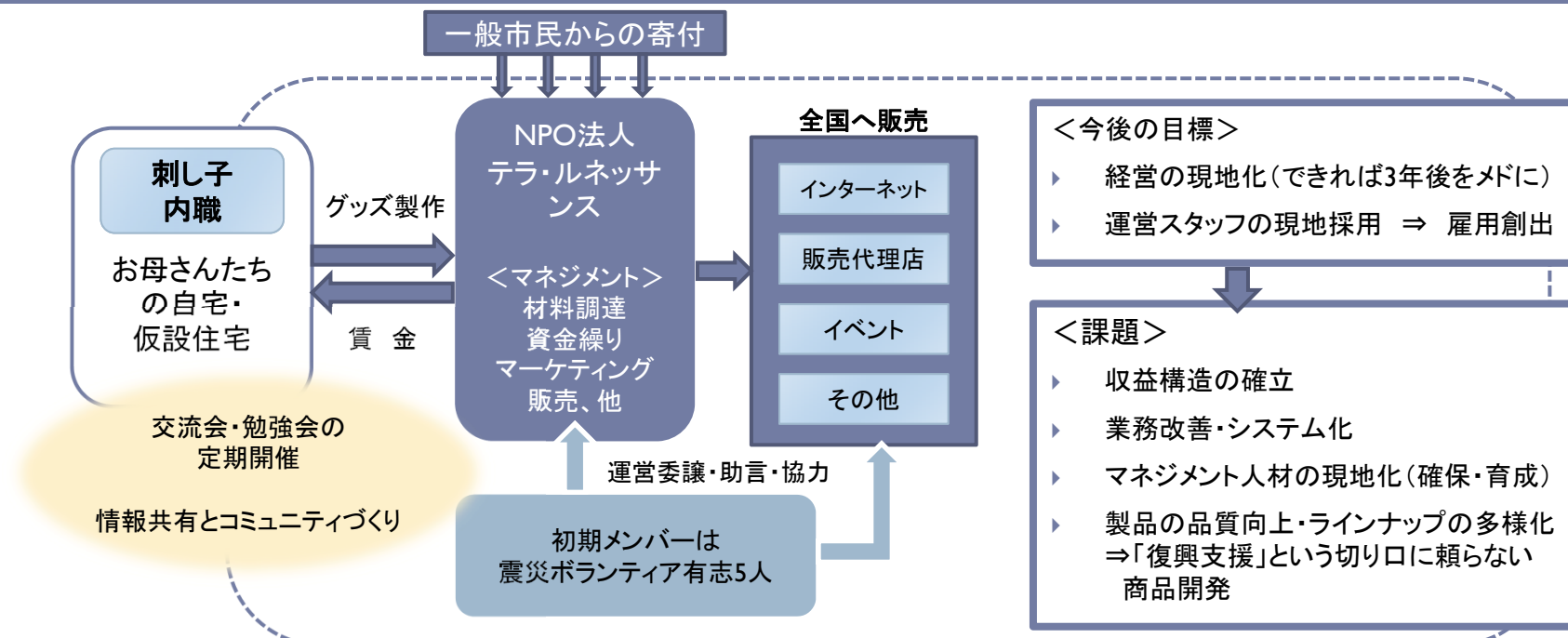


女性による起業と女性の就業の場の確保に関するケーススタディ

- ▶ 被災地において、女性が中心となって起業し、女性に就業の場を提供している4つのプロジェクトの過程について、ケーススタディとして、ヒアリングを行い、立上げから軌道に乗るまでの経緯や工夫等について、詳しく取りまとめました。

(1) 刺し子を通じた生きがいづくりから、継続雇用の仕組みづくりへ（大槌復興刺し子プロジェクト）
(2) お母さんたちによる「食と職の場づくり」で地域に活力（ぼっぽら食堂）
(3) 子育てママが女性の生活・就業支援のために起業チャレンジ
(4) ふるさとの食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出（かーちゃんのカ・プロジェクト）

(I) 大槌復興刺し子プロジェクト～生きがいづくりから継続雇用の仕組みづくりへ

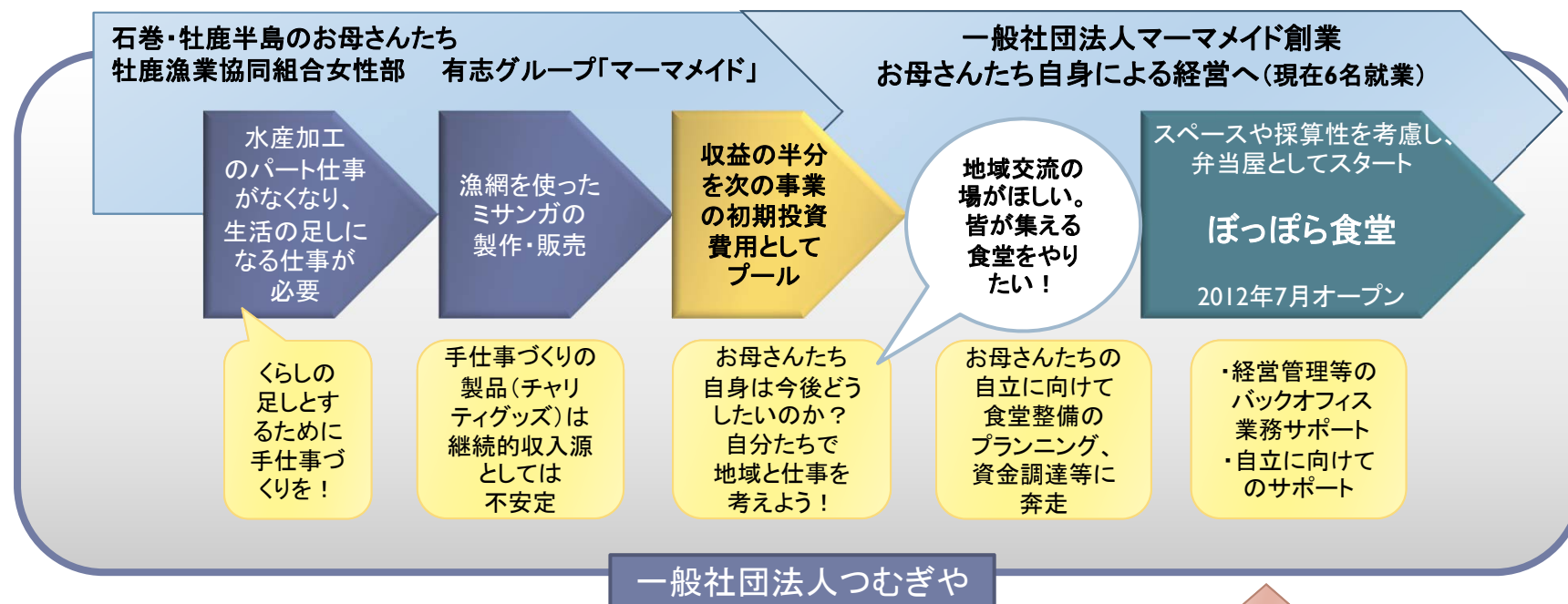


- ▶ 「大槌復興刺し子プロジェクト」は、震災直後、岩手県大槌町で支援活動をしていたメンバーを含む5人が、「いま、避難所では、『なにもやることがない』ことが問題だ」ということに気づき、大槌の女性たちに生きがいや働きがいを感じながら僅かでも収入になるような「仕事」を創ろうという思いから、2011年6月にスタートしました。
- ▶ 同プロジェクトは、発足から2ヶ月後には55人の刺し子さんに対価329,000円(商品618枚)を支払うまでになりましたが、有志5人のボランティア活動から継続・発展させるために支援事業等を専門とするNPO法人テラ・ルネッサンスに運営を委譲することとし、初期メンバーの協力の下、現在では同NPOにより、継続的な事業の仕組みの構築と将来的な現地法人化、雇用の創出を目指して事業展開されています。

売上実績(累計)

集計日	販売枚数(枚)	売上高(万円)	刺し子人数(人)	刺し子収入(万円)
2011年12/31	4,436	391	156	368
2012年6/30	14,256	1,538	186	876
2012年12/31	21,958	2,646	187	1,073

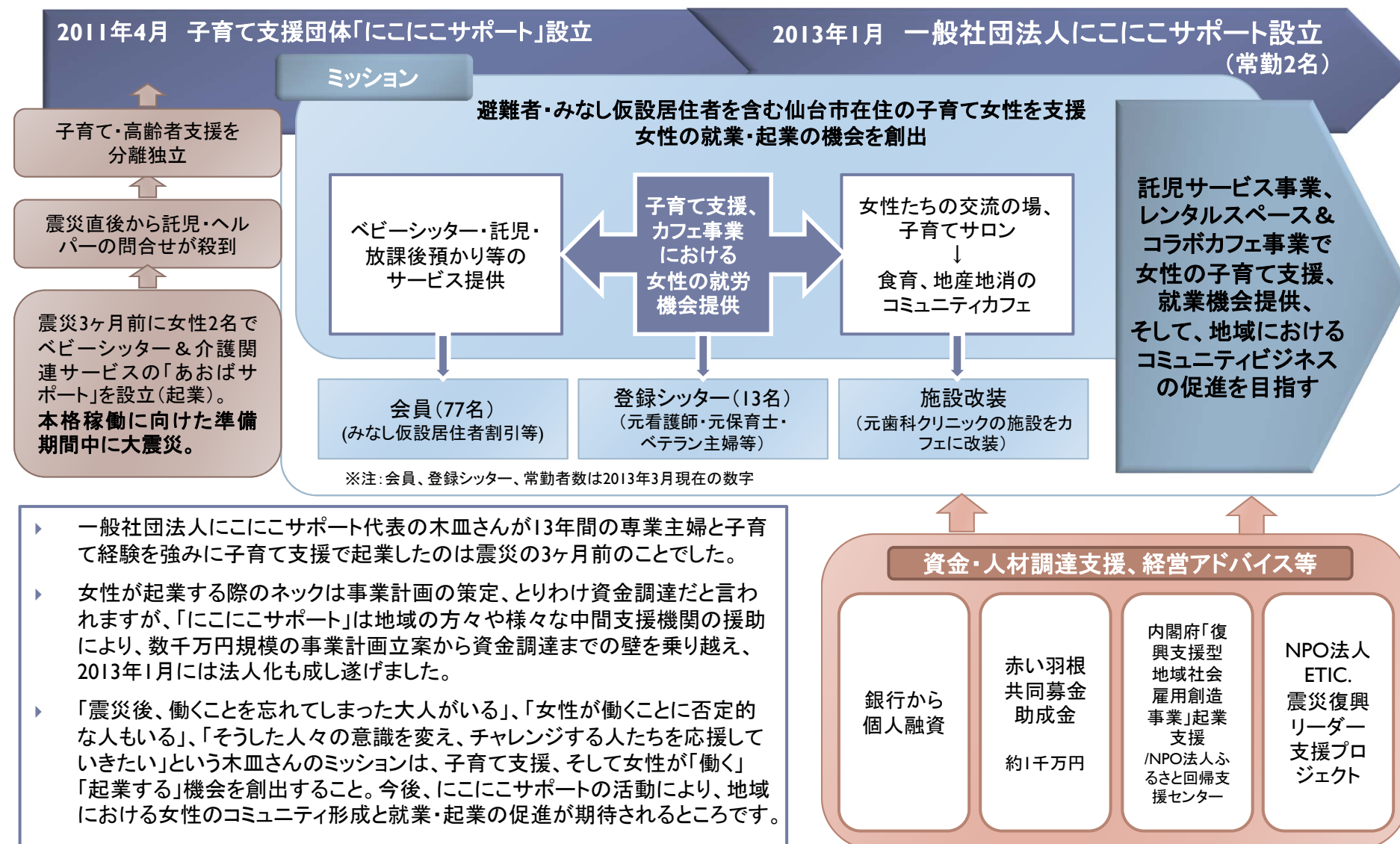
(2) ぽっぽら食堂～お母さんたちによる「食と職の場づくり」で地域に活力



- ▶ 「手仕事づくりによる製作・販売は、一時的な生活の足しにはなっても永続的な仕事にはなりにくい」と懸念する声もありますが、牡鹿半島のお母さんたちは、手仕事づくりで得た収益の一部を継続的な雇用の場づくりのために投資し、地域交流と食文化発信の拠点とすべく「ぽっぽら食堂（弁当屋）」を創業しました。
- ▶ お母さんたちの主体性を促しつつ、経営管理等の側面支援をしているのは、「一般社団法人つむぎや」の若者たち。
- ▶ 「ぽっぽら食堂」では、地域外の若者たちと地元のお母さんたちとのコラボレーションにより、手仕事づくりから地域づくりへ、ボランティアからコミュニティビジネスへ、支援から自立へという動きが見られます。



(3)にこにこサポート～子育てママが女性の生活・就業支援のために起業チャレンジ



(4) かーちゃんのカ・プロジェクト～ふるさとの食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出

福島大学・小規模自治体研究所(2009年7月～2014年2月)
大学研究者と県内11町村の長をメンバーとする期間限定研究組織。
震災以前から、飯舘村を始めとしたあぶくま地域の「地域づくり」などについて研究活動に取組み、自治体職員や住民たちとの交流があった。

かーちゃんたちと
大学研究者との
出会い
顔の見える関係

かーちゃんたちはどこにいたのだろうか？
いま、どんな暮らしをしているのだろうか？
かーちゃんたちを探しだして、
生きがいと働く場を創り出そう

飯舘村の地域文化・理念 ～自立自助・村民主体の村づくり

- 飯舘村では、第3次総合振興計画(1983年)以降、村の振興計画等において村民主体で取り組むことを前提とし、所属や立場を超え、**多様な村民、特に若者や女性の参画を推進**。
- 村民発の研修事業「若妻の翼」は、役職者ではなく農家の**若い嫁たちを海外視察研修**に出す取組。(1989年から5年間で約100名派遣)。
⇒個人を束縛する家族から、個人を育てるための家族へ

第4次総合振興計画
策定推進委員会

市町村合併を考える
「村民企画会議」

農家の主婦
だった、
渡邊とみ子さ
んの軌跡

1993年～
「地域づくり」への参加
・第4次総合計画地区
別計画策定推進委員
・村民企画会議委員

女性農業者の
活躍
農産品加工販売
農家レストラン等

女性リーダーを育む
飯舘村の地域文化

あぶくま地域の女性農業者・起業家のネットワーク

- 飯舘村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路町、川内村の5町村から成る「あぶくまロマンチック街道構想推進協議会」を基盤とした女性たちの緩やかなネットワークの存在と日頃からの共同活動により構築されていた相互信頼関係とが現在の基礎力となっている。

2007年 起業

加工施設「までい工房・
美彩恋人(びさいれんと)」
の立ち上げ

地域の古い考え方等との
葛藤の中、仲間と事業推進
⇒「加工はしたいが資金は
出せない」仲間たち
⇒仲良しサークル感覚では
事業はできないという学び

2005年
イータテベイクじゃがいも
研究会発足
会長就任

オリジナルじゃがいも
「イータテベイク」、かぼ
ちゃ「いいたて雪っ娘」の
特産品化に向けて、品種
改良した飯舘村出身の
菅野元一氏と研究開始

2010年

これまでの努力が実
り、イータテベイク種
芋生産が国から認
可
2011年度産で採種
合格できれば、
ついに念願の本格
出荷という段階まで
こぎつけた

■しかし、震災・原
発事故による避難生
活により、農地、工
房の放置を余儀なく
される

震災・原発事故
避難生活

再会

福島大学教員の
発案による
「かーちゃんのカ・
プロジェクト」

2011年10月～
渡邊とみ子さんが福
島大学小規模自治
体研究所の契約職
員として、避難中
の「かーちゃんたち」を
一人ひとり訪ね歩く
仕事からスタート
＜次ページへ＞

(4) かーちゃんのカ・プロジェクト～ふるさとの食・農・文化で女性の生きがいと雇用を創出

